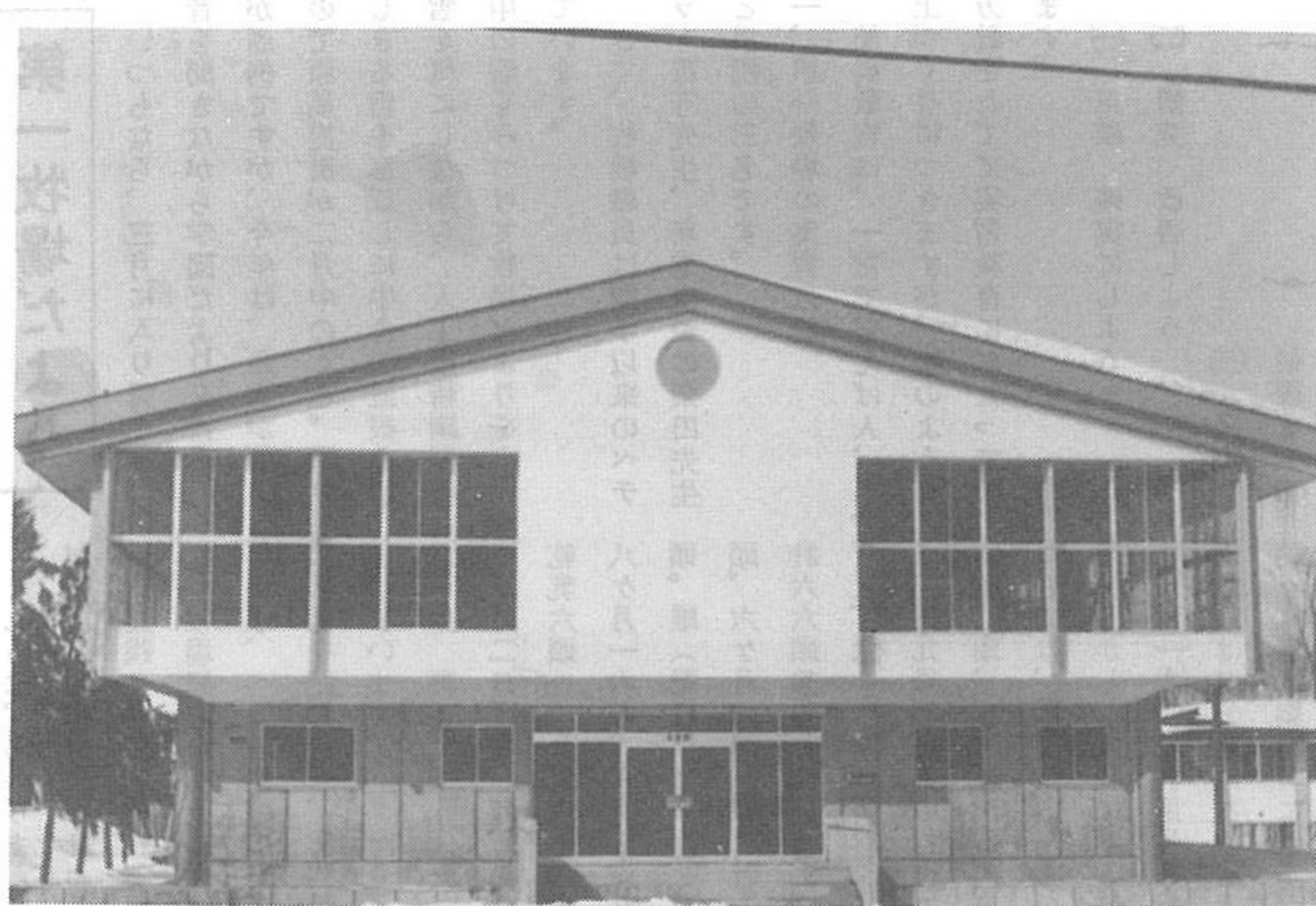


学園だより

地方競馬益金事業
No. 9
1977年3月31日発行
財団法人
中国四国酪農大学校



体 育 館

新らしい革袋に 新らしい酒を

副校長 永井 仁

今年の寒気は殊の外酷しく氷点下二〇度五分を記録した日もあり雪の方も矢張り例外では無く蒜山の春もいつもと変わり無くゆっくりとやって来るようです。

先づお知らせすることは県立時代の方は御存知の本校初代校長（県立）の故惣津先生の胸像が卒業生の諸君も含め、有志の手により本校入口隅角に建立されあの慈愛に満ちた服で諸君の将来を見守って載くことになり私共には大きな感激です。

次に今年には農林省の肝入りにより放送映画「若い土」に本校が取り上げられ全国に紹介して載きました。その上最も嬉しいことは、農林省岡山県地方競馬全国協会構成各県の物心両面に亘る暖かいご援助により待つことと久しかった体育館が旧講堂跡にドッシリとした姿で完成し旧女子寮等の古い建物を取除いて整地したため本校の姿が一変し学校としての威容が整いました。また第二牧場に

り極めてモダンな第二研修センターがああ白樺林の中に完成し第二牧場が引締って参りました。

機材の面では新らしくパワー・アイムが岡山県及び地全協の補助金により購入し威力を発揮して居ます。また岡山市にあるKK小六より創立三十周年記念事業として投影機をご寄贈載き講義に新鮮味を加えることになりました。

このように種々の面で御援助頂けるのは卒業生の諸君が真剣に酪農に取り組んで呉れていることが一番大きな力となっていることであり、更に本校の教育が最近特に喧しく言われだした「農業の担い手の養成」を文字通り先取りして行っていることを認めていただいたものであります。この失速経済時代にも抱えず計画の殆んどの総てが実行出来ましたことは本当に有難いことで関係の方々に改めて心からお礼申し上げます。私も学生諸君と一緒に酪農の実際に取り組んで四年酪農というものを素晴し

ます。

目 次

新らしい革袋に新らしい酒を	1
永井 仁	1
牧場の現況	2
第一牧場	2
第二牧場	4
赤木三夫	4
学校の今日について	5
日笠重雄	5
卒業生の海外便り	7
大学校日記	8
教務課	8
お知らせ	11
入学生名簿	11
卒業生名簿	12

この十年後に本校卒業生の比率が中国四国の酪農界否日本の酪農界占める比重を想うときさらに楽しくなります。今卒業生諸君の築いて呉れた尊い伝統のうえに新らしい革袋を作って載きました。この新らしい革袋に新らしいコクのある素晴らしい酒を入れることが私共に課せられた使命でありこのことが御協力いただいた方々の深恩に報ゆることだと信じています。

今程実力ある酪農経営者を求めている時代はないと思います。心身共に健康で頑張りましょう。卒業生諸君の御来校を待って居ります。

第一牧場だより

いつもなら、三月に入り雪どけの音を聞きながら学園だよりを書くのが通例ですが、今年は、発刊が早いので原稿提出が二月中のこと。降りしきる雪を窓ごしに牛舎の屋根の積雪を気にしながら、人工授精講習会中の暇をみつけて牧場だよりを書いています。

さて、牧場職員は開学以来のベテラン常守先生、新進気鋭の柴田先生と湯浅の三名です。

一、第一牧場の実習方針
酪農教育は、一言で言えば人、牛、土づくりにつきますが、次のような方針をたてて実習教育にあたっています。

- (一) 正確 確実にしよう
- (二) 研究 改善しよう
- (三) 努力 最後までやりぬこう
- (四) 協力 チームワークで迅速にしよう。
- (五) 愛情 牛や物を大切にしよう

況について

これらは、あたりまえの事項ですが、なかなか出来ません。これいかに実践さすかにより実習効果が上り、牧場経営も向上します。また今年から、ペット牛の担当者に牛の健康状態を記録させ、実践教育の一環として行っています。

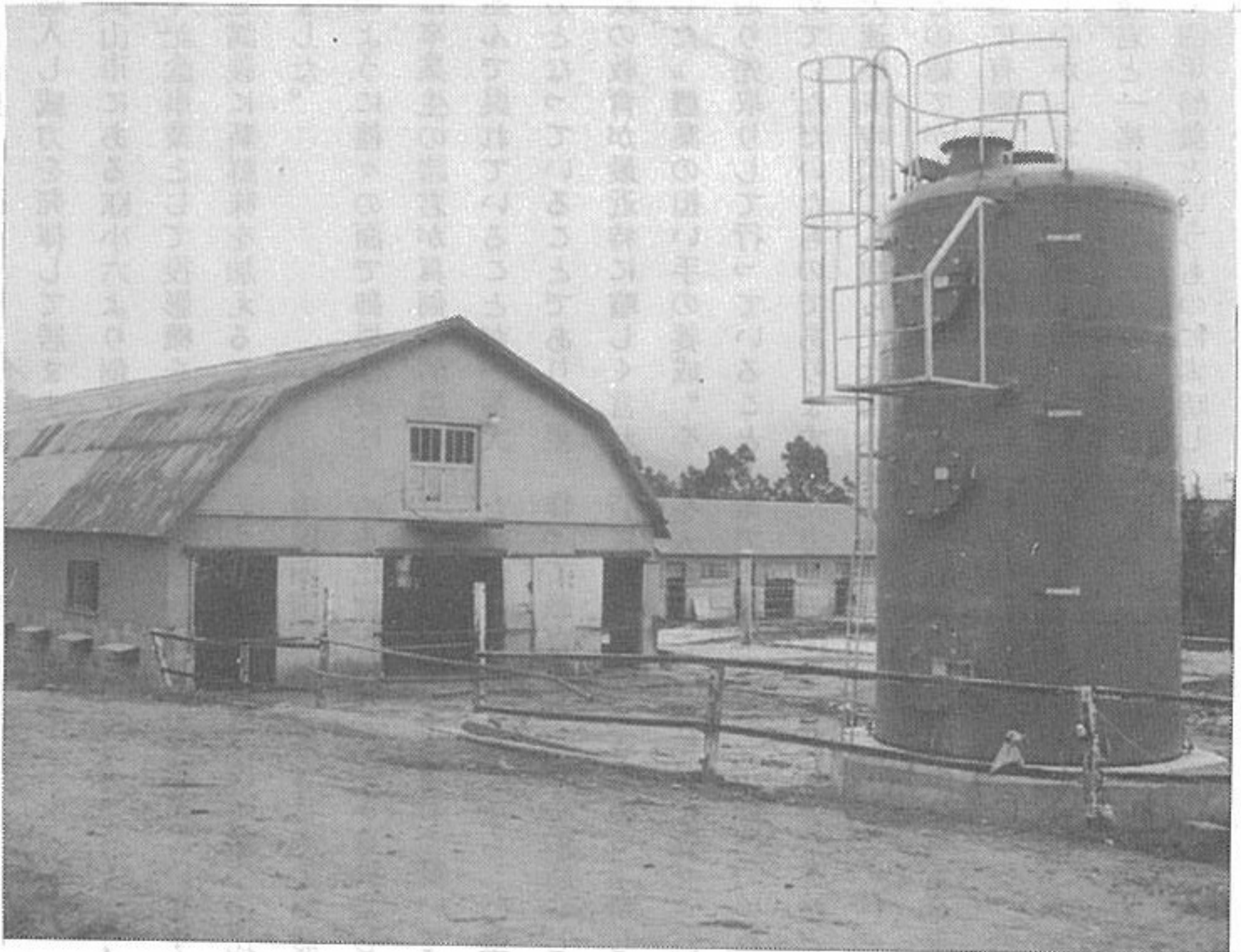
二、牛 群
二月二日現在、雌、搾乳二二頭、乾乳六頭一八ヶ月以上六頭、六一一八ヶ月一六頭、六才未満五、計五五頭。雄（肥育牛）、六ヶ月以上一〇頭、六ヶ月未満一頭、計一一頭、計六六頭繁養しています。

牛体ミニ解説
一五九号乳用牛の特質である均称体積、頸、乳房等が特に良く乳房については、岡山県内一との講評でした。しかし、後肢に少々難点があります。一六〇号乳用牛の特質で、側望からは申分無いとの講評、しかし、少々体幅、胸幅等に難点があります。一八三号こじんまりとまとまった感じの牛です。特に背腰の均剥よく体上線のすばらしい牛です。一八五号体積については、第一牧場牛中一番です。体高に比し背腰、尻に難点があります。年一産で酪大のドル箱で

昨年度から、乳牛検定事業を実施

昭和 51 年度高等登録体格審査概要

No.	名 号	生年月日	母	成績	一般外線	乳用牛の特質	体積	乳器	決定得点	体高	尻長	腰角幅	胸囲	305日総乳量	能力指数
159	マダムコンテスターパレードカヤベ	3産 45.12.25	C-24 609	82	84	80	84	82.5	142	56.6	60.0	205			
160	ドラ コンテスターパークカヤベ	4産 45.12.26	C-24 530	82	83	80	82	80.2 82.0	143	56.0	84.4	202	7,074	f8 185.3	
183	マーチエサコラニサスヘンドリックカヤベ	2産 47.6.6	C-24 34	80	81	80	81	80.5	138	54.2	58.6	192			
185	マダムコンテスターパークカヤベ	2産 47.11.5	C-24 614	79	82	79	78	79.5	147	57.0	59.2	202	6,614.2	f5 156.2	



第一牧場牛舎

中で、この成績を踏まえており一層改良に努力しているので、そう遠くない時期に、八十点以上の牛が大多数をしめるものと確信しています。

三、過去三ヶ年の繁殖成績からみた今後の繁殖改善。

産歴別に、(一)分娩後初回授精までの日数、(二)分娩後平均受胎日数、(三)受胎までの平均授精回数、を調査して問題点を見出し出してみました。調査成績は、下表のとおりですが、分

中、この成績を踏まえており一層改良に努力しているので、そう遠くない時期に、八十点以上の牛が大多数をしめるものと確信しています。

三、過去三ヶ年の繁殖成績からみた今後の繁殖改善。

産歴別に、(一)分娩後初回授精までの日数、(二)分娩後平均受胎日数、(三)受胎までの平均授精回数、を調査して問題点を見出し出してみました。調査成績は、下表のとおりですが、分

中、この成績を踏まえており一層改良に努力しているので、そう遠くない時期に、八十点以上の牛が大多数をしめるものと確信しています。

三、過去三ヶ年の繁殖成績からみた今後の繁殖改善。

産歴別に、(一)分娩後初回授精までの日数、(二)分娩後平均受胎日数、(三)受胎までの平均授精回数、を調査して問題点を見出し出してみました。調査成績は、下表のとおりですが、分

牧場の現

三〇五産の牛を多数飼育していく必要がある。必要がある。四、飼料生産 飼料基盤整備事業の完了と、常守先生をはじめ職員一同、飼料生産に努力した結果、計画以上に収穫がありました。特に、トウモロコシ、サイレージについては、バンカーサイロの上に、約一メートルの板をつぎたして収穫しました。又、カブは、一月一日〜二月二〇日、秋作イタリアン刈取りは、一月一日〜二月二五日まで給与した。簡単に、利用別収穫量は、次のとおりです。

▲放牧利用
八・四ヘクタールに、四月二二日〜一月二二日までの一二六日間、延五、九〇六頭、七〇九時間利用した。一日平均放牧頭数、四六、八頭で五、六時間放牧した。

▲埋草利用
飼料畑を、二毛作利用し、イタリアンライグラス三、一ヘクタール、トウモロコシ五、〇ヘクタールに播



160号第1牧場名誉牛



159号の乳房

種。貯蔵量で、トウモロコシ一八一トン、イタリアン三二トンの収穫がありました。▲青刈利用 九、五ヘクタールを利用し、生産量一六四トン、利用率八九％で、カブの生産は、〇・五ヘクタールで二六トン収穫した。▲乾草利用 イタリアン埋草残り八牧区の一チャードを利用し二二トンを生産した。

以上、利用別を集計し総生産量は、約九五〇トンで、利用率七六％位になります。一〇ヘクタール当りでは、約六・二トンを生産したことになります。

今後の飼料生産の課題として、良質のトウモロコシ、サイレージを調製するために、二毛作のイタリアンライグラスを出来るだけ早く刈り取り、トウモロコシ播種を早め、台風の前（八月二二日頃）に、埋草が終了するよう努力しなければならぬ。又、牧場の周囲の側溝を掘り、水はけをよくすることにより良質牧草の高位生産が得られるものと思う。五、乳量の増加と乳房炎の絶滅

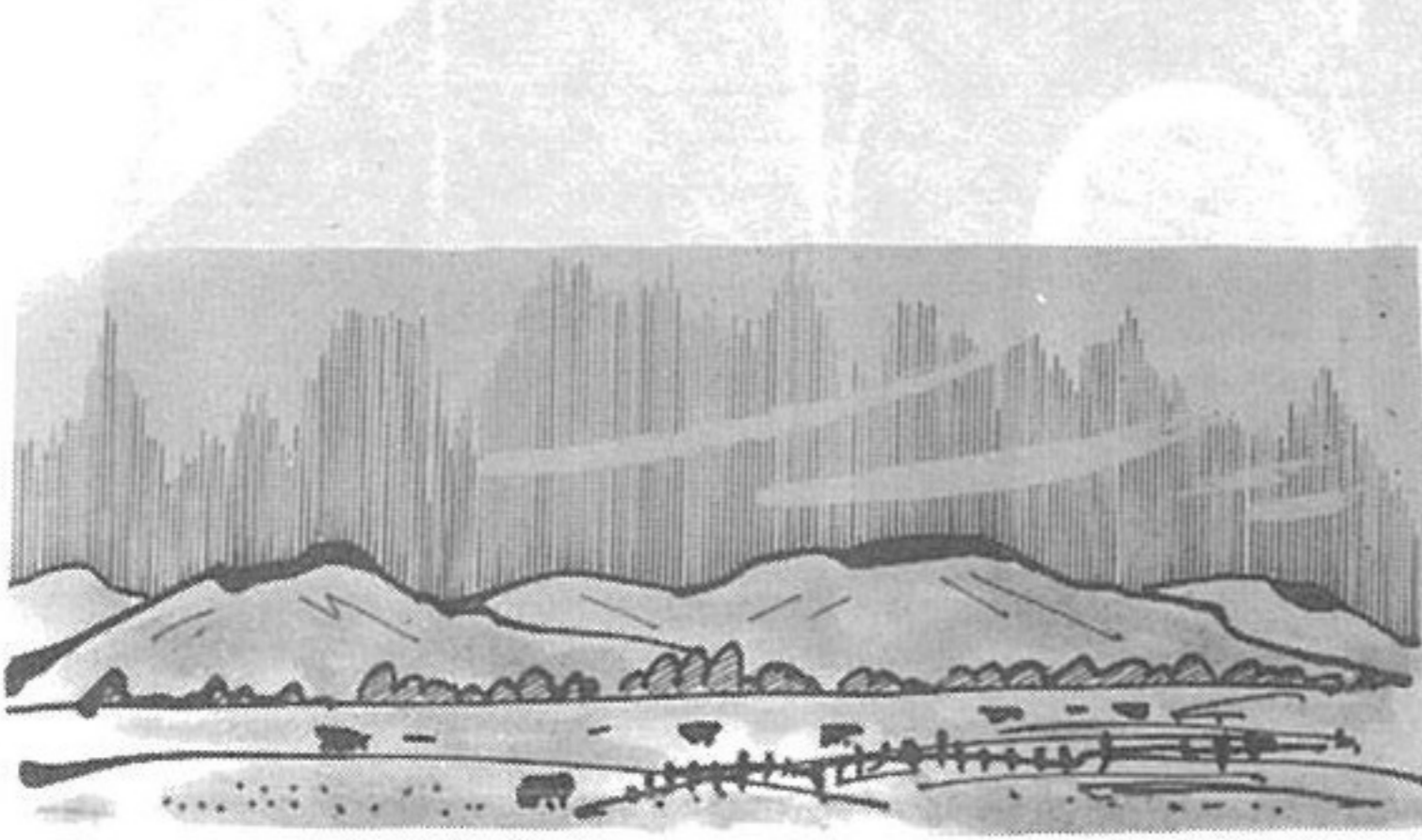
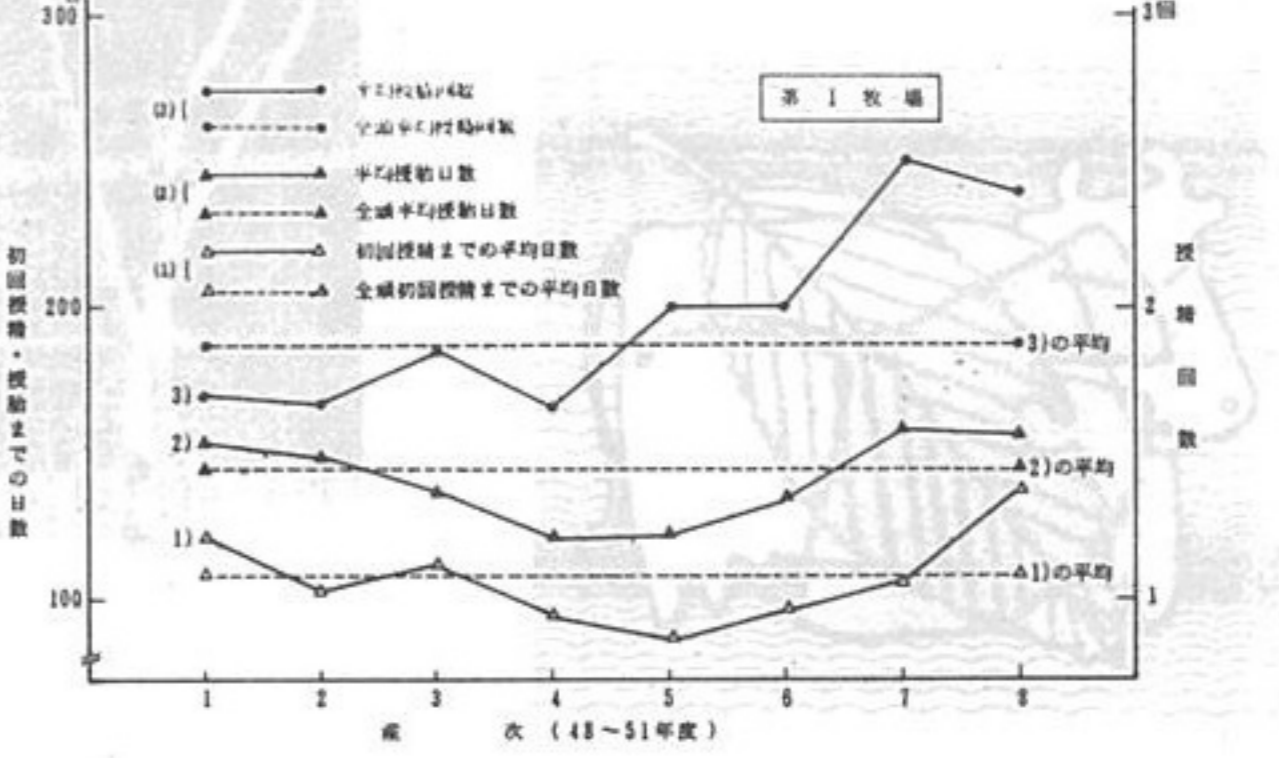
牛舎改造と毎月の定期的牛舎消毒および、搾乳後のディッピング等により、乳房炎を絶滅することが出来、又、五月〜二月までの飼料生産に努力し、特に放牧をしながら青刈りで粗飼料を多給したので、本年は、過去三ヶ年で最高乳量になると思われます。

◎年度別、月別、一頭当りの生乳量は次表のとおりです。以上近況報告を終ります。

年度別、月別1頭当り生産乳量

年度別	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均kg
49	12.6	14.7	14.0	14.1	13.8	14.0	15.8	16.9	15.6	17.2	17.2	17.7	15.3
50	16.0	18.7	17.3	16.3	15.9	15.6	14.4	13.6	14.7	13.5	14.7	17.6	15.8
51	16.8	19.8	19.5	19.7	18.7	18.9	18.2	17.0	16.1	15.9			

年度別、月別1頭当り生産乳量



第二牧場だより

今年の冬は例年に比べ全国的に異常な寒波で、卒業生のみなさんも、さぞかしお困りの事と存じます。

蒜山地方も相変わらず非常に寒く、積雪も例年になく多く毎日除雪に精を出しております。

さて、第二牧場も昭和四十九年度から施設整備に伴い、今年度は旧事務所の公舎を取り除いて、その跡にモダンな第二学生研修センターを新築し三木ヶ原で偉容を呈するようになり、施設及び経営内容も一段と充実してきましたので、その概要をお知らせします。

一、施設整備

表一の通り昭和四十九年度と五十年年度は牛舎改造及び牧道整備を重点に整備しましたが、五十一年度第二学生研修センターの新築及び公舎の改築等を実施いたしました。

なお、五十二年度はロータリーパラー(十二ポイント)を全国地方競馬協会及び地元岡山県の御助成を載き、新設できるよう努力中であり

二、乳牛飼養状況及び泌乳成績

現在、ジャージー種雌一三三頭、雄一頭(種雄牛候補)、肥育牛四頭

第二牧場施設整備状況(表1)

年度	整 備 内 容
49	第1牛舎の改造, 貯尿槽(スライーストア 1畝310㎡)の新設, 定置配管(1,000m)の新設, 草地更新(10ha)
50	第2牛舎の改造, 貯尿槽(コンクリート50㎡) 定置配管(2,000m) 水飲場の新設, 牧道の新設及び舗装, 牧柵の新設, 草地造成及び草地更新
51	第2学生研修センターの新築(160㎡) 搾乳牛用パトックの舗装, 車庫の新設 旧事務所の改築

(ジャージー種×シャロレー三頭、ジャージー×和牛一頭)を肥育しております。(表2)

また、産歴別にみますと、表三のとおり十産以上の牛が十一頭いますが、これらの牛も翌年度は殆んど廃用する予定にしております。

しかし、三十六年生(十七号)の牛は、五十二年六月に十三産目を分

乳牛飼養状況(表2)

区 分	性別	成 牛			育 成 牛				肥 育 牛	計
		搾乳牛	乾乳	小計	18カ月以上	12~18カ月	12カ月以下	小計		
ジャージー種	雌	65	25	90	14	8	19	41		131
"	雄				1					1
ジャージー系種									4	4

娩する予定になっておりますが、後二産位は分娩できるのではないかと思っております。

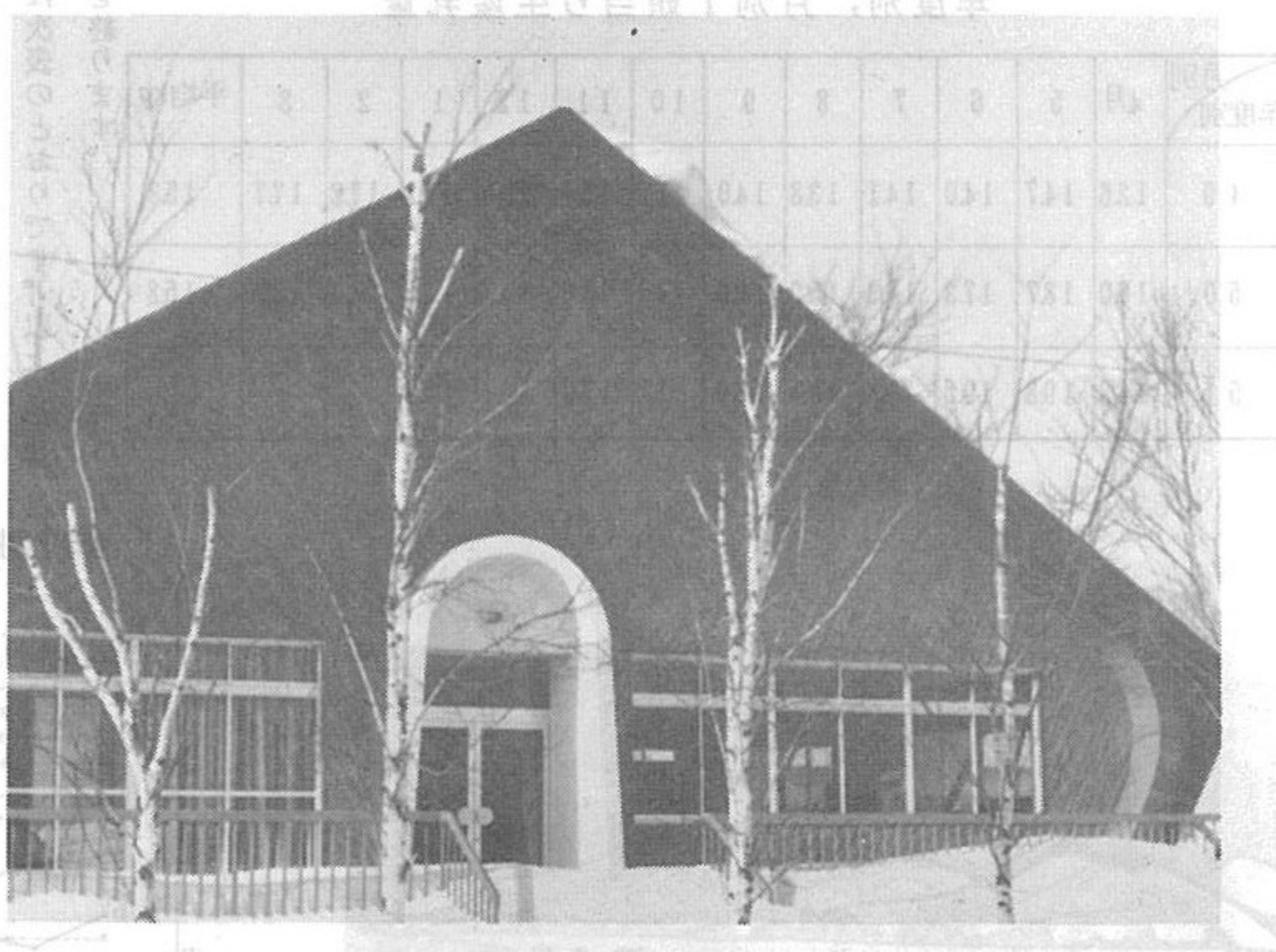
皆さんも牛の耐用年数をできるだけ永くするように一層努力して下さい。

産歴別乳量についてみますと、表三の四十一年から五十一年の十年間

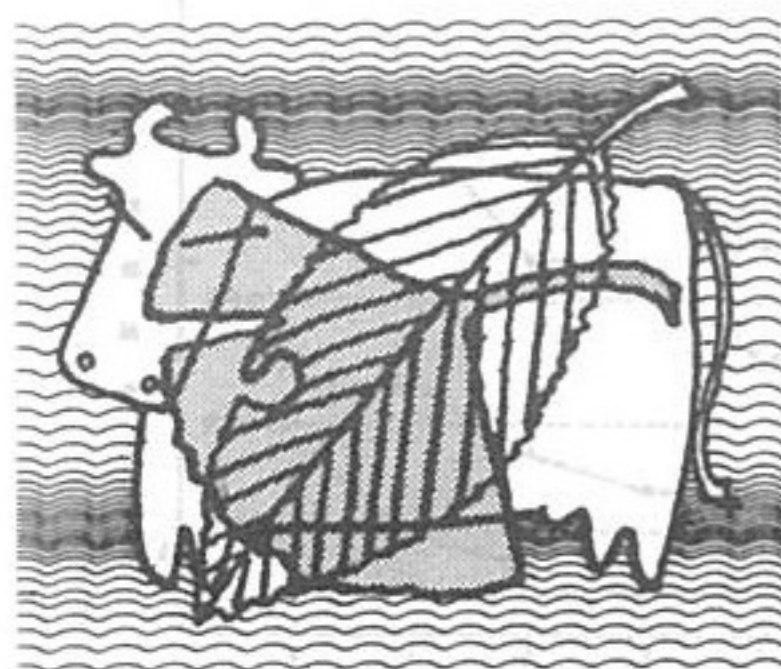
では、平均で二、八九三kgでありましたが、五十年から五十一年の二年間では三、一三五kgとなっており、一頭当りの乳量も表四のとおり著しく増加してきました。

三、粗飼料の増産

昭和四十九年度から毎年五、十haの草地更新を実施し、永年牧草の高位生産に努めております。



第二学生研修センター



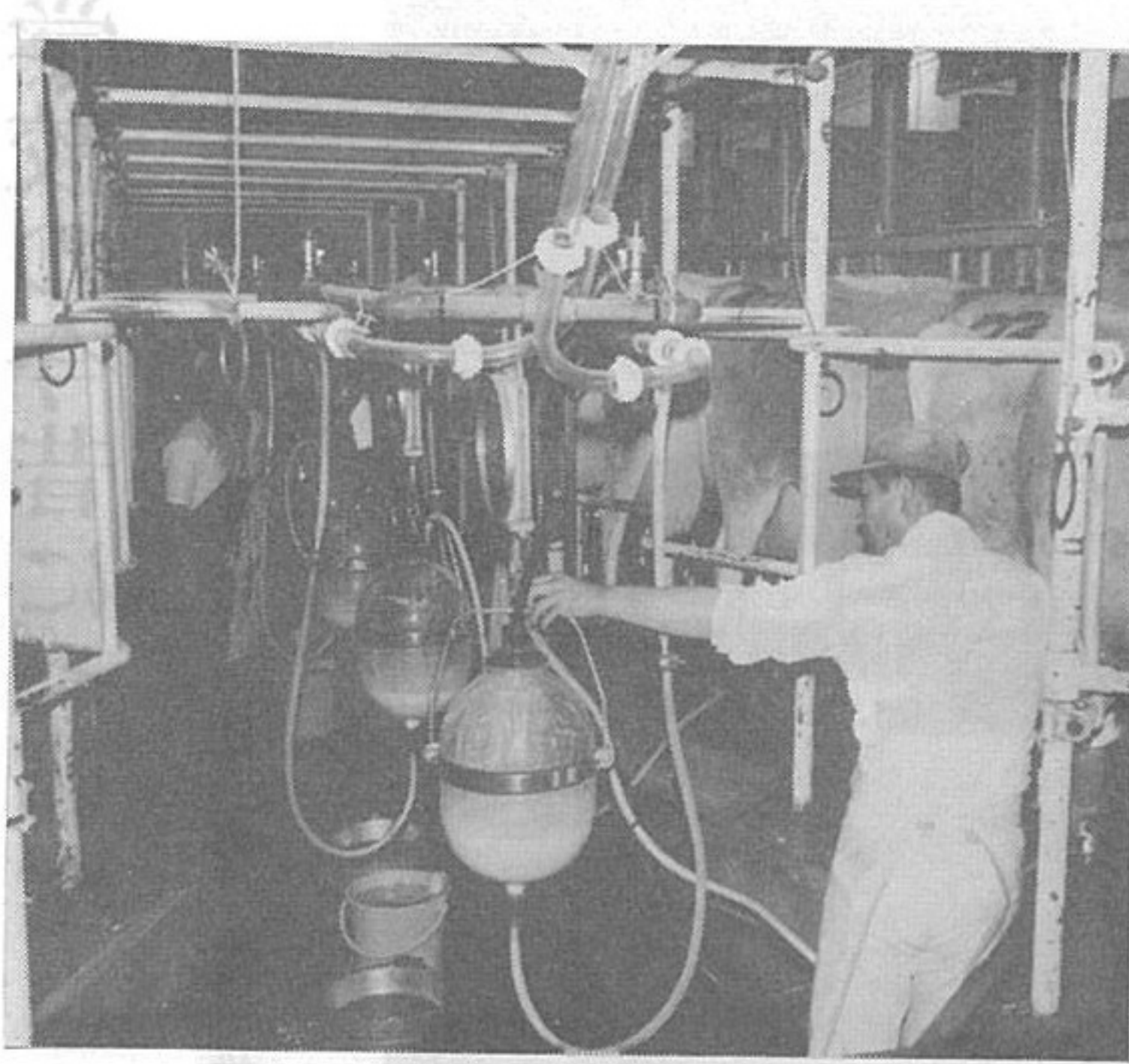
また、従来第二牧場ではトウモロコシの栽培は行っていなかったが、五〇年度から草地更新をする前作として、トウモロコシ栽培を行いサイレージとして貯蔵するので、従来の牧草の乾草及びサイレージに加えて冬期の粗飼料が充分給与できるようになりました。したがって、乳量も年々増加するとともに、牛体が非常に健康的になりました。

しかし、草地更新地のトウモロコシ栽培も雑草の繁茂及びガラス等による被害で非常に苦勞しておりますが、これも草地更新前に堆肥及び石灰、リン酸肥料が充分投入でき、永年草地の土壤改良と粗飼料の増産が図れるので、職員一同頑張っております。

以上、第二牧場の近況をお知らせいたしました。今後、施設整備及び経営内容の充実等について、努力いたしますので皆さん方のご来場をお待ちしております。

最後に、卒業生の皆さんのご健康と一層のご活躍をお祈りいたします。

(第二牧場 赤木記)



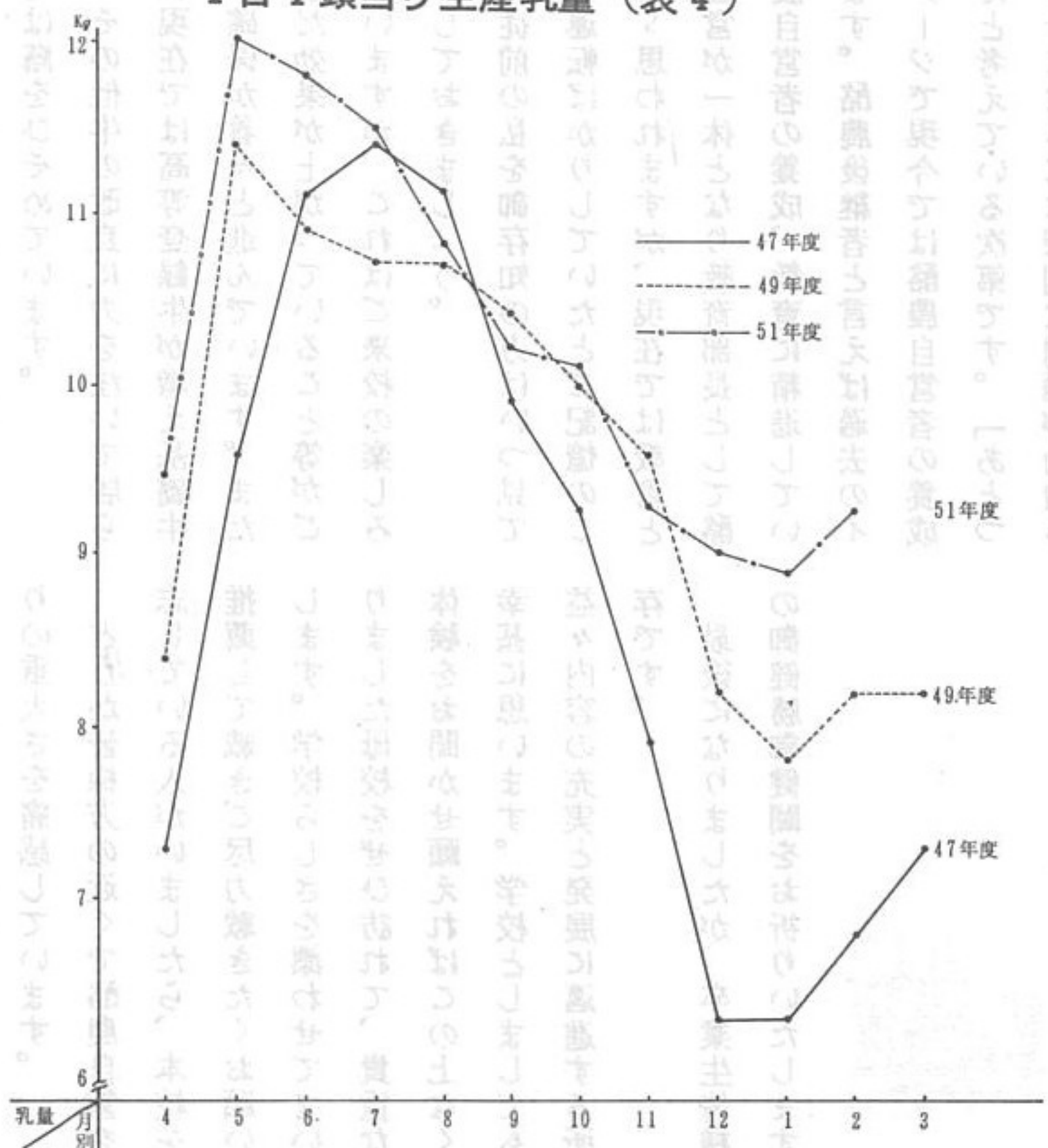
第二牧場ミルクパラ

産歴別飼育頭数及び泌乳成績 (表3)

区 分	産 牛												平均	未經産牛	計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
飼 育 頭 数	18	15	16	11	7	4	3	2	2	7	2	2		42	131
平均泌乳量(kg)	41年~51年まで	2735 (106)	2730 (95)	3628 (75)	3000 (67)	3033 (64)	3047 (53)	2983 (45)	2913 (35)	2737 (25)	2652 (14)	2283 (6)	2397 (3)	2893	
	50年~51年まで	2673 (32)	3086 (29)	3309 (21)	3825 (14)	3353 (9)	3257 (6)	3340 (6)	3382 (12)	2934 (12)	3116 (7)	2763 (4)	3147 (1)	3135	

(注) ()は調査対象頭数

1日1頭当り生産乳量 (表4)



学校の今昔について

教育部長 日笠重雄



春を告げる雪解け水を眺めていると私の蒜山生活もずいぶん永くなる。と今更ながら感慨にふけてしまいました。過去を振り返る度にあの時あの頃の思い出がそして卒業生の皆さんの顔が浮んでまいります。

私は五〇年四月に再度学校へ赴任してきました。しかし以前の様子を一新しつつある概要と活気にビックリすると共に新しい職務に身をひきしめざるを得ない自分を覚えたのでした。近況は毎年の「学園だより」においてご存知と思いますが、手許に届いてない方もあると伺いましたので、自分の記憶から変ってきていることを述べてみます。

競馬協会・岡山県の御援助並びに職員の努力の結晶として種々の事業が完成しました。

新施設に伴う改善点について簡単に述べますと次のようになります。◎寮完備は学生の生活環境を快適に近代化的なものとし、牧場と人間生活の場を区分することで夏のハエからも悩まされることが少なくなりました。

◎乾草調整は極端に減少し、グラスサイレージが主体となったので、天候を以前程気にしなくてすみます。天気加減では生乾きのまま集

納して冬期カビの煙が立つ乾草を牛に給与することがありましたが、そういうこともなく、従って冬期の乳量もかなり期待できます。

◎全牧野に地下定置配管施設が完備してあり糞尿の土地還元が徹底した方針で望んでいるので牧野に地力がつき、化学肥料の散布量は極端に減少してはいますが、草量には余り変りないようです。

以上の他にも第一牧場を刈取方式としたことで草地利用が有効に出来即乳量にもよい結果をみています。又、牛舎改造は乳房炎が減少し、今では蔭をひそめています。

その他牛の改良に力を注いで居られ現在では高等登録牛が増え基礎牛の確保が着々と進んでいます。まだまだ効果が上がっていること等がございいますが、これはご来校の楽しみにしておきましょう。

従前の私を御存知の方はいつ見ても運転ばかりしていたとご記憶のこと、思われますが、現在では教育と経営が一体となり教育部長として酪農自営者の養成、教育に精進しています。酪農後継者と言えは過去のイメージで現今では酪農自営者の養成だと考えている次第です。「あとつぎ」になるには深刻な問題が山積み

しています。現在の体勢なり状態を維持もしくは改善していくためにはそれ相応の実力を付けて載かなくては合理的な経営能力を発揮する自営者になれない。その点幸い学生諸君はユニークな者が多く個性的である。個性的であればある程自営者「あとつぎ」候補に期待出来るものと確信し、うれしく思っています。これらの酪農は人づくりが重要だと言うことは卒業生の皆様方を拝見していればよく分ることで、種々の機関の人達から酪大卒業生の立派な経営について話を聞く度にいよいよ人づくりの重大さを痛感しています。

どうか皆様方の近くで酪農自営を志している人がいましたら、本校を推薦して載きご尽力載きたくお願ひします。学校らしさを漂わせてまいりました母校をぜひ訪れて、貴重な体験をお聞かせ願えればこの上なく幸甚に思います。学校としましても益々内容の充実と発展に邁進する所存です。

最後になりましたが、卒業生皆様の御健勝御健闘をお祈りいたします。

卒業生の

海外便り

第一〇期生 小林雅己

蒜山の秋はすっかり深まり、ソロソロ初雪の頃と思います。生活の変化にも慣れた今、多少の余裕位は出てます。しかし、まだまだこれからです。一人前になれるのは。

今は約六五〇頭の搾乳牛を相手に、二人で一回八時間かかって搾っています。一日二回の搾乳は一六時間一七時間を必要としています。一頭当たりの搾乳時間は、一二時間間隔でうまく守られています。自分は朝の部搾乳担当で、六時〜一四時、夜の部は別の人が一八時〜三時頃までしています。

百頭用ストール、連動スタンションにパイプラインと八台の機械を使用、牛はホルス、ジャージー、ガンジー等混合搾乳です。この牧場の全頭数は一五〇〇頭以上になるでしょう。牛は年中屋根無しで、広大でペロリと平らな草地に各段階別に散らばっています。これだけ広い草地(六〇〇ヘクタール位)がありながら、経営の主体は濃厚飼料なんです。草

地はけっこう牧草らしきものがありますが、特に草地管理は行っていません。地質が砂地のため(フロリダ半島全土)、まともに施肥等の管理でもすれば、大変なお金がかかるでしょう。それよりは、日本に比べ格安の飼料をタップリ利用する方が割が良いと思われれます。しかし、この面積、もったいない話です。

一日の乳量は二、六〇〇ギャロンと二、八〇〇ギャロンです。数からみればあまり芳しくないでしょう。しかし一ギャロンが約三リットルとチョットですから、大変な量です。乾乳は、月に一度の乳量チェックの結果、まとめて四〇〜五〇頭行われています。発情牛のチェックは朝夕の牛を集める時に行われ、搾乳が終わった時点で発情牛だけ別のパドックに入れておくのです。毎日、出産牛、発情牛等大変な数です。糞尿等はデカイホースで水洗です。(早い話、タレ流し)

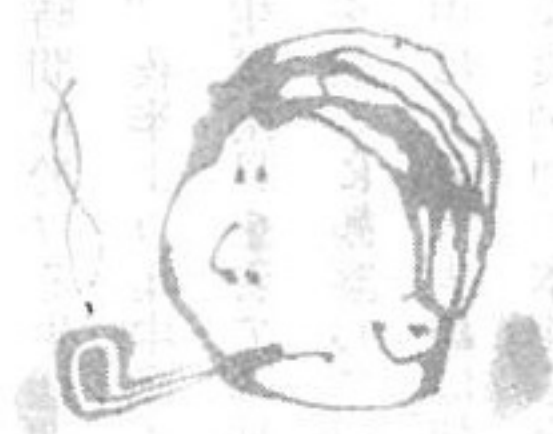
八時間の搾乳の間は一分の休みもありません。長い牛舎をウロウロの毎日です。二人の搾乳者の他、あと一人が牛の出入れ専門です。大変話が前後しますが、あともう少し数が増えれば、機械は二四時間まわりっぱなしになるでしょう。以前は仕事

が終わればクタクタだったのですが、今は何ともありません。本当に慣れるということはオソロシイことだし、大切なことですよネエ。

酪農技術はこの場合、学ぶという点では日本が同レベルにある感で大差ないのですが、一見ケチに見える合理的精神にはいつも感心しています。もうかる経営のためには、合理的ということは大変だけど大切だと思っています。

という訳で、間もなく四ヶ月目の今、とにかく元気で頑張っています。来月から一ヶ月半ほどは家庭に居ソウロウだったのが、その後家をもらってポツンとひとりで住んでいます。このせつかくのチャンスを利用してデカイ人生勉強が出来れば最高だなんて、一人前のこと言ってます。

一九七六年一月二三日
フロリダ州マイアミより



ネパールより 便り

松田 芳行

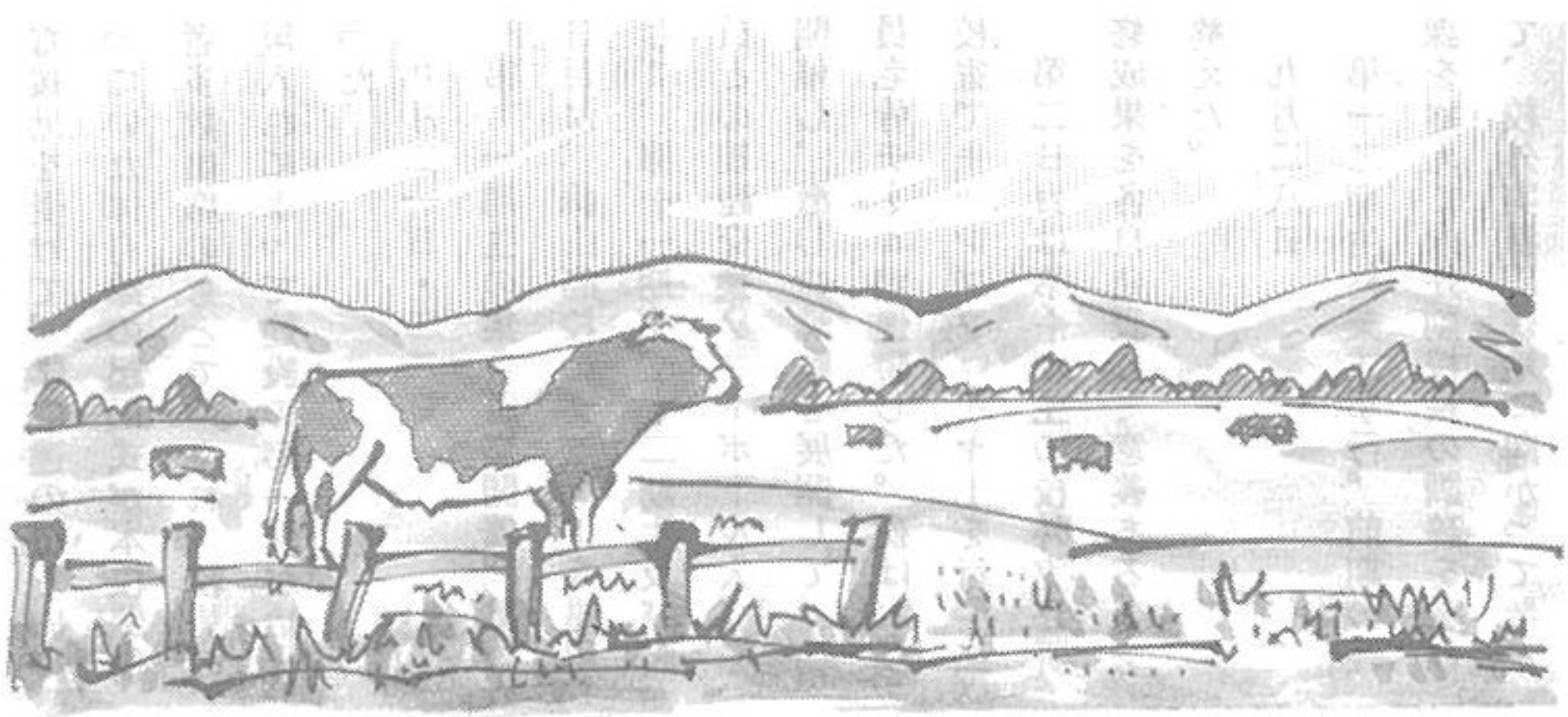
前略
日一日と秋が深まりつつある良い季節となりましたが、益々お元氣のことと存じます。

さて私は、今春麻布獣医大学を卒業して、早速に政府が国際協力の事業として行っている青年海外協力隊の獣医隊員としてネパールへ派遣されることになって、この四月からその研修と訓練をうけていましたが、やっとこの九月末をもってそれが修了できましたので、いよいよ今月中旬ネパールへ出発することになりました。

ついては二ケ年間、現地で協力活動を行なうわけですが、その間、ご無沙多して申訳ありません。しかし二年後帰国してからは、今迄同様によりしくご指導、ご鞭撻のほどをお願い致します。
〒754-112
山口県吉敷郡阿知須町大平山
松田 芳行

※ネパール連絡先

Mr. Yoshiyuki Matsuda,
J. O. C. V office P. O. Box 450
Kath mandu, NEPAL,



大学校日記

四月五日

第一二期生の入学式を挙げる。

栄えある入学式には中国四国農政局生産流通部長を始め、各構成県理事及び多数の畜産関係機関の来賓者の臨席のもとで祝福を受け、三五名(うち女子一名)の酪農大生が誕生した。

四月二二日

田淵校長他界される。本校校長は、岡山県農林部長を兼務されており本校の教育施設整備事業および、農林行政に最良の堅持的指導力を有し、その手腕は高く評価されていたが、公務多用により急死された。後任校長は信江農林部長がなられる。

四月二三日

両牧場の放牧開始。今年は暖冬異変により二月二〇日以降は降雪なく、牧草の伸びも良く、第一牧場では四月二三日から、第二牧場は四月二六日より放牧開始した。

五月二四日

サイレージ詰込み開始。今年は飼料基盤整備事業による糞尿灌漑施設を高度利用して、糞尿の土地還元を

積極的に両牧場ともに行った結果、牧草の高位生産が得られ、乾草調整と冬期の貯蔵飼料の主体をなすサイレージ詰込み作業を学生と職員が一体となって終日実習を行い計画通りの貯蔵飼料確保が出来た。

六月一六日

読売テレビの企画による「若い土」と言う映題で我が酪農大生の実践的教育概要を、農林省監修のもとに映画化するため撮影団が訪れ、第一期生を対象として各種の実験実習実施状況を次々と撮影し、学生達は平然とした態度で演出効果を上げていた。放映は読売テレビ局をキーステイションとして、十一月三日に我が学園の教育概要が全国に紹介された。

七月

トウモロコシ畑の除草実施。今年には例年になく降水量が多く、第二牧場のトウモロコシ畑に雑草「タデ」が異常に繁茂して、除草剤の散布では葉効なく学生による人海戦術によってやっとタデ駆除が出来て、お陰様でトウモロコシの高位生産が得られた。

八月一〇日・一一日

乳牛の生態調査実施。学生を六班に区分して、第一牧場の乳牛個体調

査二頭。第二牧場は四頭を対象として二四時間に於ける生態調査を記録させた。夜半より集中豪雨にみまわれ、学生は雨具を着て草地に立ち牛の動態を熱心に観察していた。夜明けより雨はやみ、牛群は朝日の上昇と共に草食動物の本能を発揮して、生草を喰う光景が見られた。

八月二五日

第一牧場、トウモロコシ刈取り開始。糞尿灌漑施設の完備により施肥を充分した結果、飼料圃の地力は増強してトウモロコシの生育が良く、

八月三一日

体育館起工式挙行。本校の教育施設整備計画に基づき、本年度も地方競馬全国協会及び地元岡山県の強力な援助を受けて、学生達の待ちに待っていた体育館の起工式が本校関係者多数出席のもとで催され、校長の歎入れによって建設の第一歩が始まった。

九月二一日・二二日

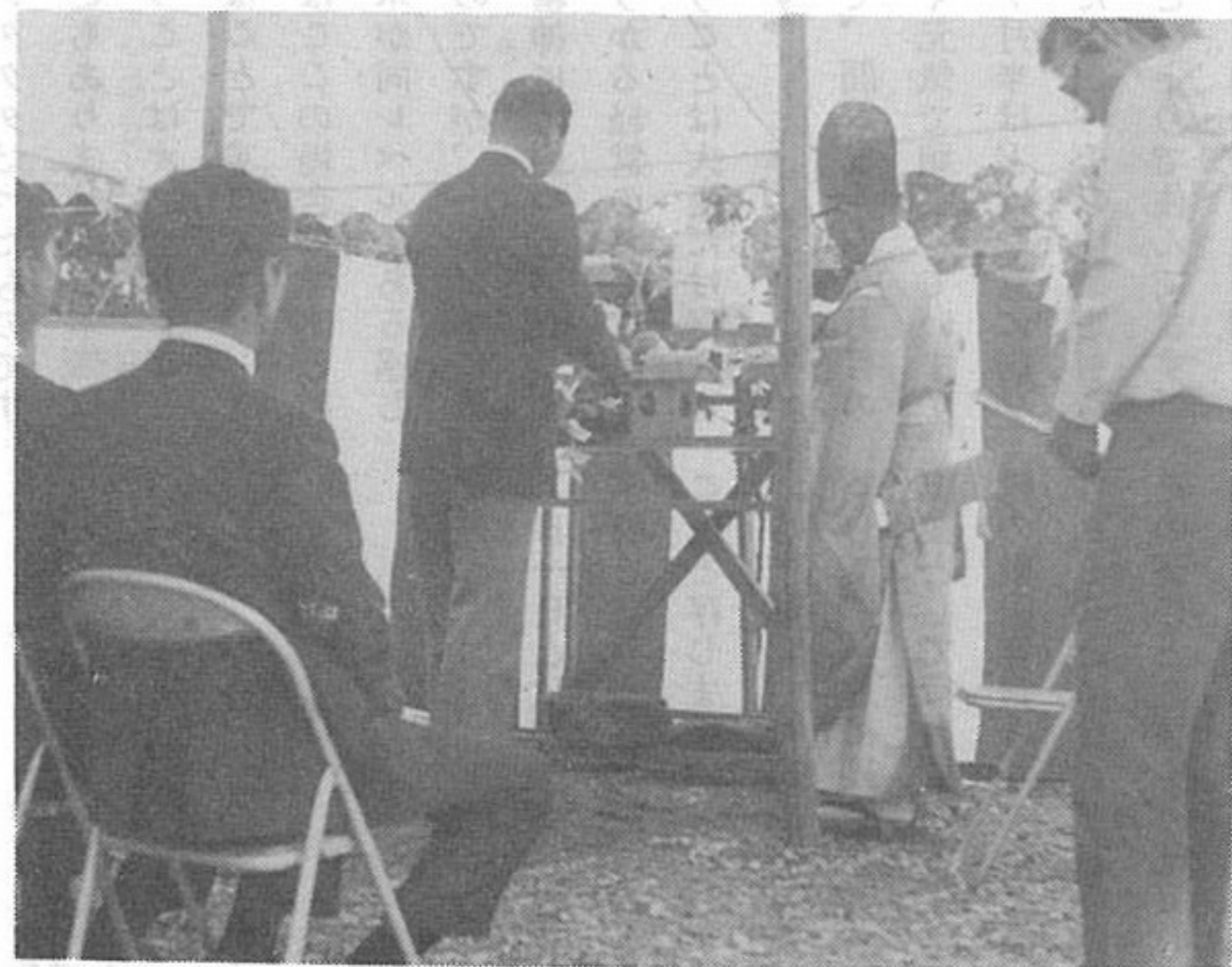
第一期生の集合研修開催。第一日目は、蒜山高校のグラウンドを借用して、第一期生、第二期生及び職員との親睦交換ソフトボール大会を開催し、激しい熱戦を展開して、職員老骨チームが優勝した。夜は本校校庭でキャンプファイヤーを行った。第二日目は第十期生の校外実務研修成果を各自発表して意義ある会を終えた。

九月二八日

第一期生、後期始業式挙行。校外実務研修を終えて、全員沙婆の風にさらされて、人間的成長を果たし酪農経営意欲に燃えぎって、我が学舎に帰って来た。

一〇月四日

第一期生、後期始業式挙行。校外実務研修を終えて、全員沙婆の風にさらされて、人間的成長を果たし酪農経営意欲に燃えぎって、我が学舎に帰って来た。



体育館起工式



牧草収穫



集合研修の
キャンプファイヤー

一〇月二日・一三日

大型トラクター免許取得試験実施。幕式が御遺族及び関係者のもとで、例年により蒜山高校のグラウンドで実施試験を行う。本年は残念なことに、除幕の紐が引かれた。

受験生全員合格と言った成績ではなかった。

一月六日

故惣津律士氏の胸像除幕式挙行。我が酪農大学校創立者の故惣津律士氏の胸像が、本校の校門に畜産関係者多

数の願いによって建立され、その除

二月三〇日

体育館及び第二学生研修センター

竣工。学生の期待していた体育館が事業費六、〇〇〇万円、鉄骨平屋建、建面積五二五平方メートルの雄大な

る体育館は本校の事務所の正面に完

成した。体育館の完成によって、我

が学園は他校に劣らない校風を保持するようになった。第二学生研修セ

ンターが第二牧場に事業費二、七五〇万円、建面積一六〇平方メートル

の近代的建築技術を導入して建設し

ていたが、このほど完成し、蒜山地
区を訪れる観光客も一度は立ち止ま
って見る様な立派な建物です。卒業
生の皆さん、一度は我が学園を想い
出して御来校ください。

一月三十一日

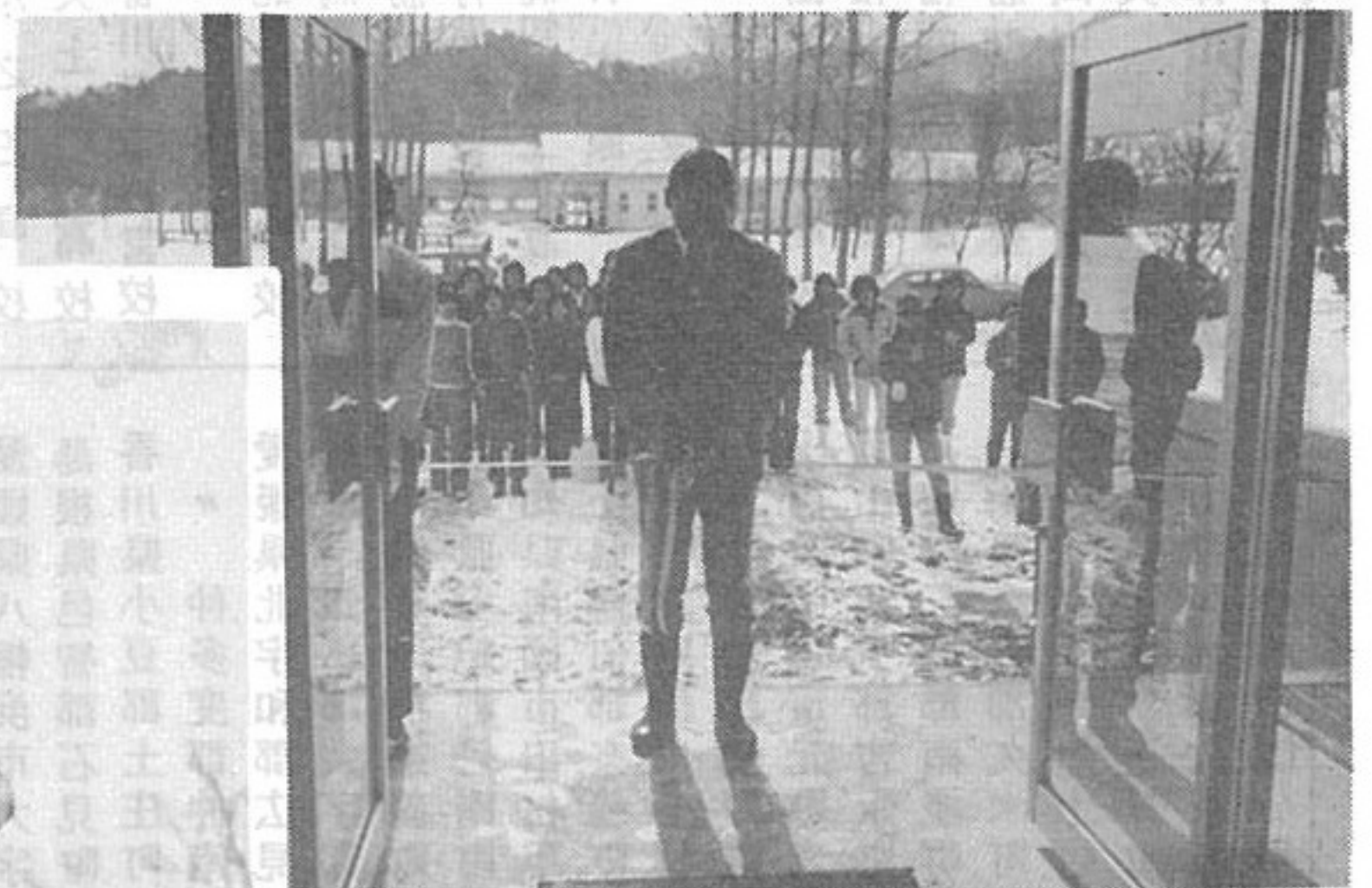
体育館の開館式挙行。昭和五一年

度の本校施設整備事業の体育館の建
設がこの度、事業完成したので、開
館式を永井副校長を始め本館建設関
係者の出席のもとに、五色のテープ
に飾り入れられて開館され、これを
祝して体育館開館記念バレーボール
大会が、酪農OB及び学生、職員各
チームの編制により、熱戦が展開さ
れ、酪農OBチームが勝杯を受けた。

一月二六日・二月四日

家畜人工授精講習会の開催。例年

によって、岡山県の主催による家畜
人工授精講習会が開催され、第一一
期生受講者は三〇名で連日終日講義
のため、学生もいささか疲労度を見
せながら熱心に受講した。二月九・



体育館開式



酪農大学校創立者
惣津律士氏の胸像

三月二十八日
第一期生の卒業式挙行。本年度

(教務課 新田記)

一〇日に講習会修業試験が行われ、
学生は新築された体育館で、多数の来賓
者の出席のもとに祝福を受け三一名
の酪農経営士が誕生し、我が学窓を
後にして巣立って行った。

お知らせ

人の動き.....

昭和五一年度、岡山県定期人事移動が四月一日に発令され、我が学園の諸先生の移動があったので、左記の通りお知らせします。

退職者 (主任助手) 美土路啓典

転出者 (総務部長) 宇山和男

(第一牧場長) 奥 一郎

(技 師) 尾崎厚一

職員 (昭和五一年五月一日現在)

岡山県酪農試験場 振興課畜産係長

津山地方振興局農林事業部農業

勝英振興局建設部管理課長

岡山県酪農試験場

振興課畜産係長

津山地方振興局農林事業部農業

勝英振興局建設部管理課長

岡山県酪農試験場

振興課畜産係長

津山地方振興局農林事業部農業

勝英振興局建設部管理課長

岡山県酪農試験場

振興課畜産係長

津山地方振興局農林事業部農業

勝英振興局建設部管理課長

岡山県酪農試験場

振興課畜産係長

津山地方振興局農林事業部農業

勝英振興局建設部管理課長

岡山県酪農試験場

振興課畜産係長

津山地方振興局農林事業部農業

勝英振興局建設部管理課長

岡山県酪農試験場

振興課畜産係長

津山地方振興局農林事業部農業

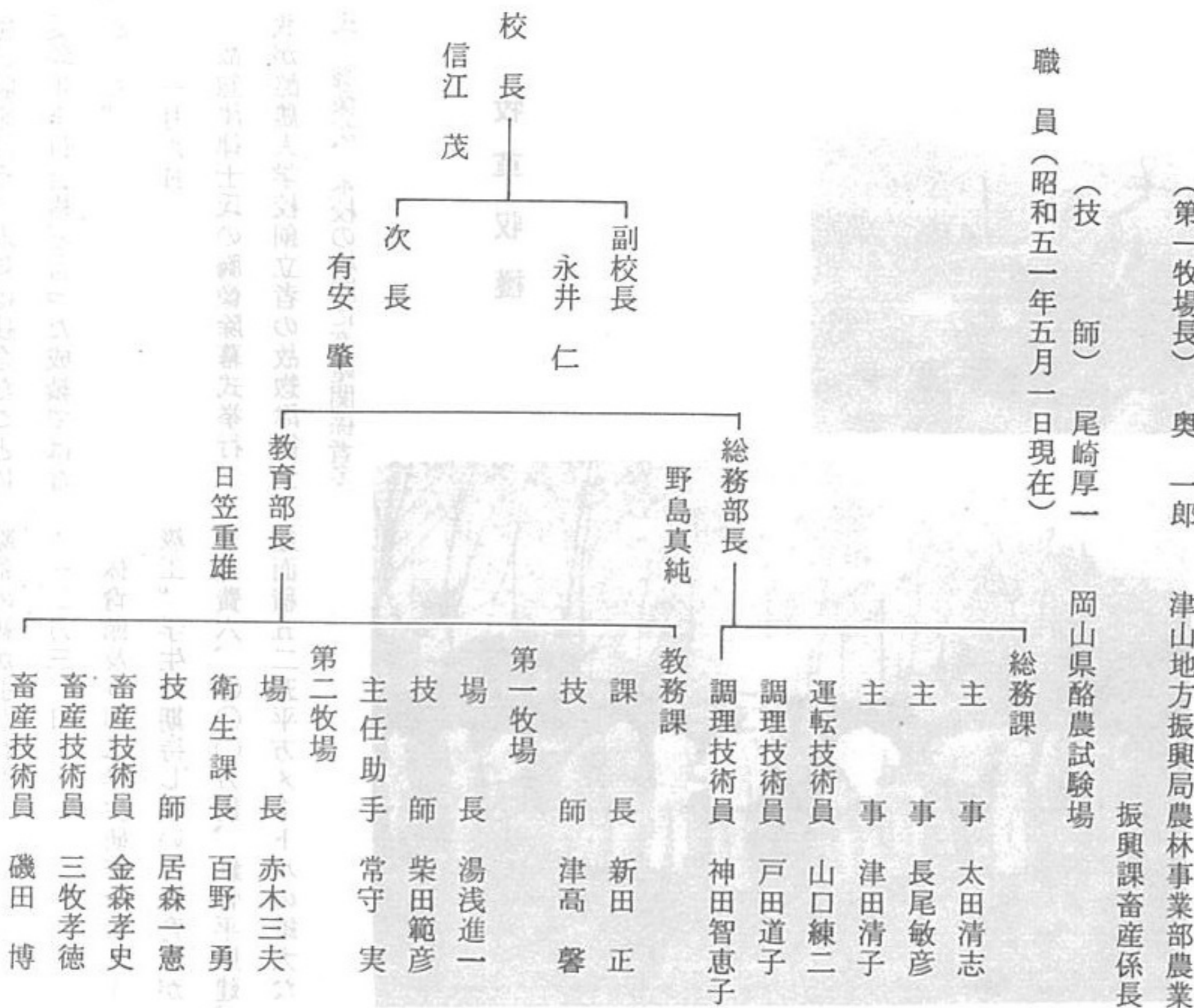
勝英振興局建設部管理課長

岡山県酪農試験場

振興課畜産係長

卒業生の結婚について

昭和五一年度に於いて我が学園の卒業生が華燭の宴を挙行されたのでお知らせいたします。第六期生、長綱義則君。七期生、赤木正治君。八期生、山田忠夫君の以上の三名のかたが新家庭を築かれたので今後の御活躍と御多幸を祝したいと思います。



昭和五一年度 第十二期生入学名簿

昭和五十一年度

第十一期生卒業証授与者名簿

編集後記に臨んで

卒業生の皆さん、元気にて日夜の酪農諸業務に精励のことと存じます。今回の学園便りの発行につきましては、我が学園の施設整備と牧場概要について記載いたしました。今後我が学園と卒業生の皆様との有機的連繫を深めて行くために毎年一回以上発行いたしたいと思いますので、皆さんの御寄稿を期待いたします。

